

3. トピック② 「学生生活調査」からみる2016年度入学者たちの4年間

「学生生活調査」は、正規課程の全学生を対象に毎年実施しています。対象者の選定にあたっては、学生の皆さんが4年に1度必ず抽出されるよう設計しています（その際、最終年度を除く各年度では無作為抽出しています）。したがって、今年度の4年生の方々も、2016年度には1年生、2017年度は2年生、2018年度は3年生としてこの調査に参加していただきました。むろん各年度での回答者の顔ぶれは異なっていますので、統計的精度は担保できませんが、回答結果を時系列にみると、入学年グループの様子を概観することが可能です。

そこで、今年度の報告書ではトピック②として、2016年度入学のグループの学生たちの4年間をたどっていくことにします。4年間反復して尋ねている項目は9つあります。

授業出席率と授業評価、卒業後の進路希望、身体面・精神面での健康状態

授業への出席率の推移をみると、文系・理系とも1年生がもっとも高く、学年進行に沿って低下しています。この傾向はとくに文系で顕著です。文系グループは4年時点では「90～100%」出席している比率は37%にとどまっています。

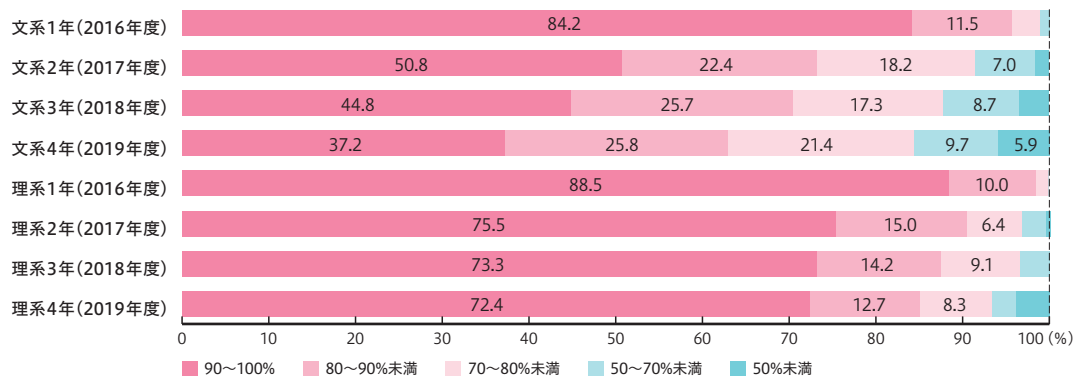


図22 文理別にみた2016年度入学グループの授業平均出席率の推移

他方で、満足できる授業の割合は、文系・理系とも非常に似通っています。「80～100%の授業に満足できる」比率は、2年時点・3年時点では1割程度であったのが、4年時点では、3割を上回っています。

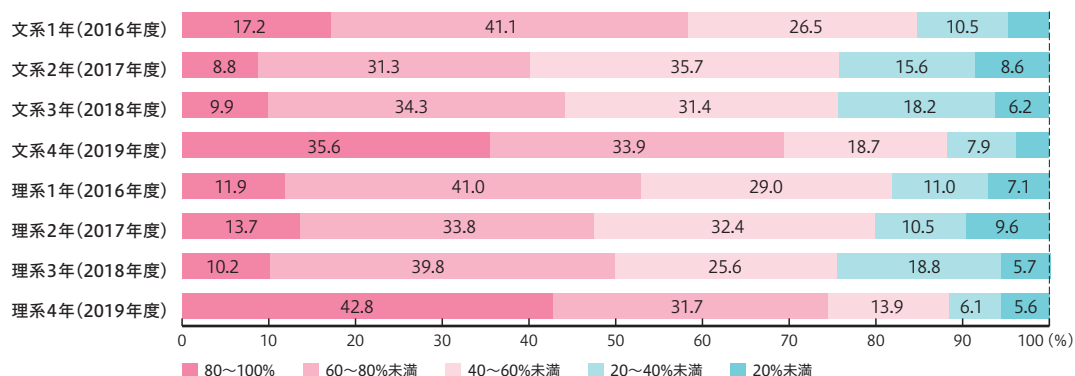


図23 文理別にみた2016年度入学グループの満足できる授業割合の推移

「授業等が卒業後の進路先で役に立つと思うか」については、1年生当時は高率でしたが、その後は低下しています。とくに文系でその傾向が強いようです。

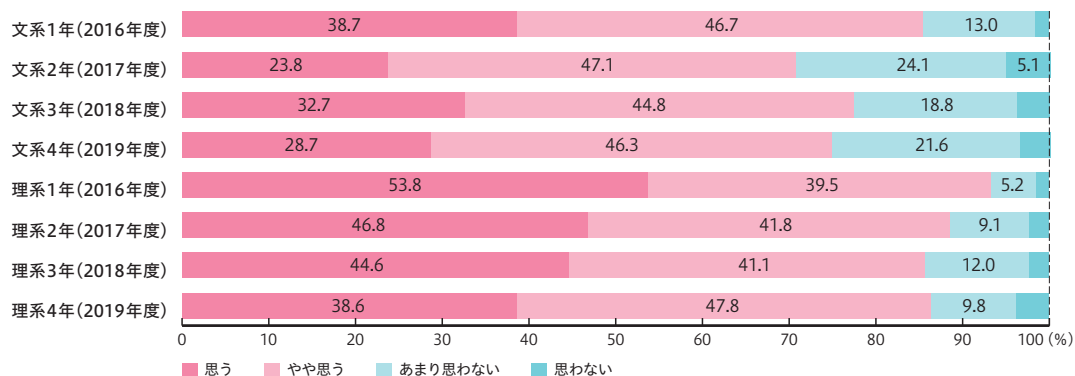


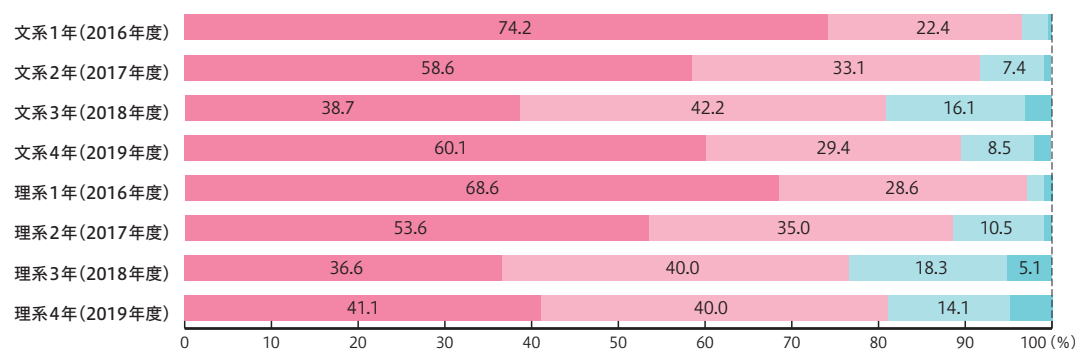
図24 文理別にみた2016年度入学グループの授業等が進路先で役に立つと思うかの推移

つづいて、このグループの卒業後の進路希望の推移をみましょう。文系からみると、1年時点では「民間企業」希望64%と「公務員」31%、「大学院進学」16%と進路の選択肢が広がっていましたが、その後は収れんしていき、4年時点では「民間企業」77%、「大学院進学」11%、「公務員」10%となっています。理系では、1年時点では「大学院進学」と「民間企業」の希望がそれぞれ48%でしたが、2年、3年となると、「公務員」と「研究所・シンクタンク」も選択肢に加わるようになりました。文系とは異なり、理系では2年生・3年生の時点で、選択肢がもっとも広がっていました。そして、4年時点では「民間企業」と「大学院進学」へと再び収れんしていきました。

表13 文理別にみた2016年度入学グループの学部卒業後の進路希望の推移(複数回答) (%)

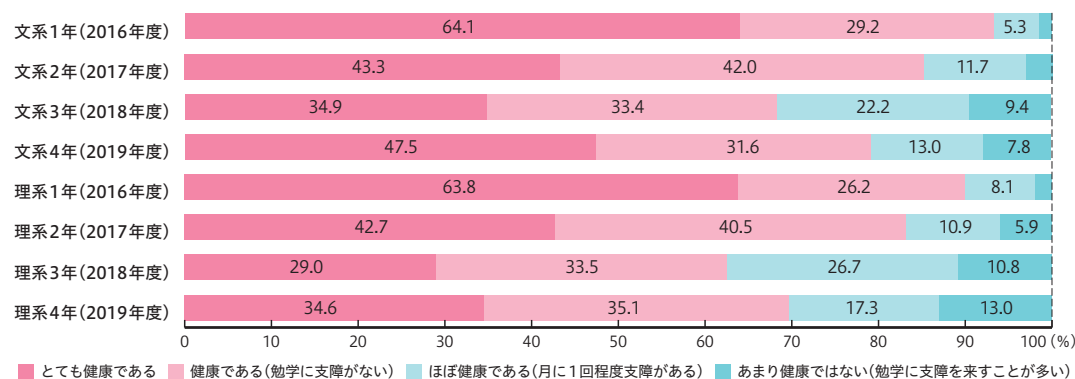
	N	民間企業	公務員	小中高教員	大学教員	大学院進学	研究所・シンクタンク	起業・フリーランス・自営業	各種資格試験受験	留学	NGO・NPO	未定	その他
文系1年(2016年度)	788	63.8	31.0	8.9	2.3	15.5	3.2	9.5	8.6	8.6	—	11.7	4.7
文系2年(2017年度)	715	72.3	27.4	5.7	2.5	11.7	2.8	8.7	6.0	6.9	—	10.9	0.0
文系3年(2018年度)	597	74.7	20.4	6.7	2.2	13.2	4.4	8.4	5.9	7.5	5.2	4.5	3.5
文系4年(2019年度)	665	76.7	10.2	3.0	1.8	11.3	1.8	4.4	2.6	1.4	1.5	3.2	1.7
理系1年(2016年度)	210	47.6	8.6	4.3	2.4	48.1	13.8	10.0	2.9	5.2	—	11.9	2.9
理系2年(2017年度)	220	51.4	14.1	3.6	4.5	54.1	21.4	8.6	5.9	8.6	—	11.4	0.0
理系3年(2018年度)	175	61.4	15.9	4.5	3.4	51.1	14.8	8.5	4.0	8.0	1.7	4.0	0.6
理系4年(2019年度)	185	54.6	7.0	2.2	1.6	46.5	8.6	7.0	2.2	0.5	1.1	3.2	0.5

身体面での健康評価は、図25のとおり、文系・理系とも1年時点でもっとも高く、その後低下し、3年時点がもっとも低くなっています。その後、回復しています。この傾向はとくに文系で顕著です。これを精神面での健康についてみると、身体面と同様の経過をたどっています(図26)。文系・理系とも、3年時点ではかなり精神面ではつらい経験をしていたことがわかります。



※2016・2017年度の選択肢:「健康である(勉学に支障がない)」、「ほぼ健康である(月に1回程度支障がある)」、「あまり健康ではない(勉学に支障を来すことが多い)」、「健康ではない」

図25 文理別にみた2016年度入学グループの身体面の健康の推移



※2016・2017年度の選択肢:「健康である(勉学に支障がない)」、「ほぼ健康である(月に1回程度支障がある)」、「あまり健康ではない(勉学に支障を来すことが多い)」、「健康ではない」

図26 文理別にみた2016年度入学グループの精神面の健康の推移

アルバイト、入学した学部への評価と学生生活の充実度

アルバイト経験は、文系・理系とも1年時点ではそれほど高くありませんが、2年時点以降は8割程度が「アルバイトをしている」と回答しています。学生生活での中心的活動の一つがアルバイトであったことがわかります。

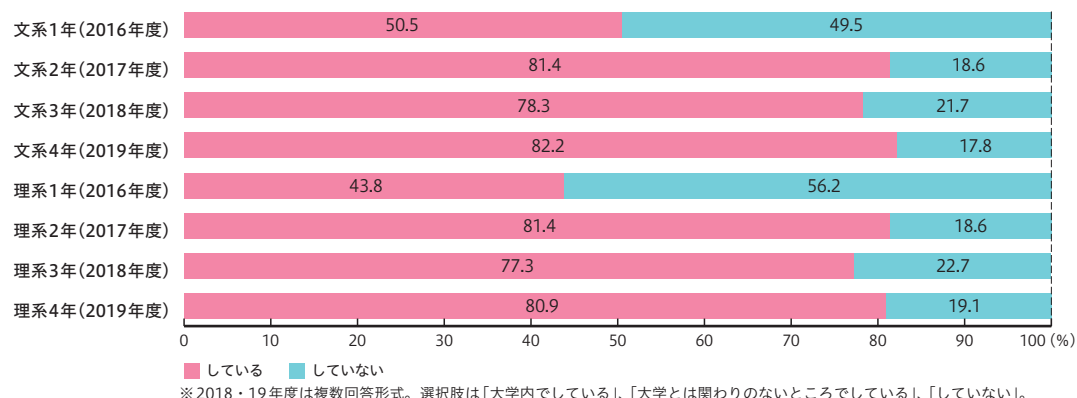


図27 文理別にみた2016年度入学グループのアルバイトの推移

最後に、入学した学部への評価と学生生活の充実度の推移をみましょう。入学した学部への満足度は、1年時点では文系では45%、理系では41%が「満足している」と評価していました(図28)。「やや満足している」と合わせると、90%を超える高水準でした。2年時点と3年時点では評価は低下しますが、その後、4年時点では再び上昇し、1年時点よりも「満足している」比率が高くなっています。他方で、学生生活の充実度は、文系では1年時点・2年時点よりも3年時点、そして4年時点と高くなっていきました(図29)。4年時点では52%が「充実している」と回答しています。理系の場合には、それほど顕著な上昇はみられませんが、同じく4年時点での評価がもっとも高くなっています。

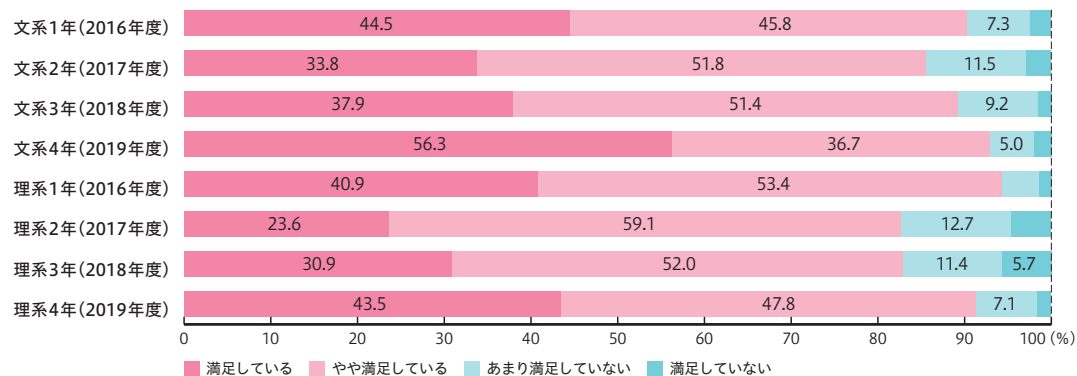


図28 文理別にみた2016年度入学グループの入学した学部への評価の推移

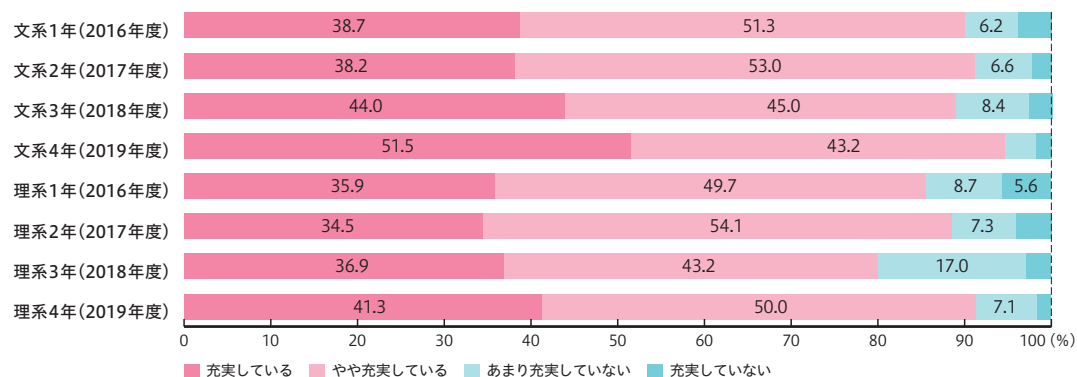


図29 文理別にみた2016年度入学グループの学生生活充実度の推移

以上、2016年度入学グループの4年間の調査回答結果を、時系列にみてきました。強い学習意欲をもって入学したのち、アルバイトなど学業にとどまらない活動を展開し、しだいに各自多様に、充実した学生生活を営むようになったことが推察されます。入学した学部への満足度は、2年時点・3年時点でやや低下したものの、その後上昇して、現在4年生を過ごしているようです。今年度の結果はあくまでも参考程度にとどめますが、今後、複数年度の入学グループ間の比較が待たれるところです。